

学習の手引き

東みよし町立三加茂中学校

1. はじめに

「あなたの夢は何ですか。」「あなたが将来就きたい職業は何ですか。」中学校では、自分の将来を考える機会が増えるものです。そして卒業後、自分の選んだ進路に進みます。夢に向かって進路希望を実現するためには、この3年間に計画的な学習の積み重ねをして、心や体の成長とともに学力を高める必要があります。それには、学校での勉強も家庭学習もどちらも大事となるのです。

そこで、学習成果を上げるための手立てになればと考え、この手引きを作成しました。まずは実践してみませんか。また、家庭でも相談しながら取り組んでみませんか。

2. 学校での勉強について

(1) 授業の取り組み方

いうまでもなく、授業が基本です。毎時間の授業を大事にすることが、基礎・基本の定着への近道であり、応用力をつけるための原点です。何となく50分を過ごすのも、集中した50分を過ごすのも、同じ50分とはいえ得るものには大きな違いがあります。そこで、毎時間の授業を大事にするために、次の「5つのチェック」を心がけてみましょう。

《5つのチェック》

① チャイムと同時に着席する。

授業への態勢が整っていないと、スタート時点から慌ててしまいがちです。チャイムと同時に、授業に臨む気持ちや姿勢を切り替えましょう。

② 準備物・提出物を忘れない。

教科書やノート、筆記用具等、授業に必要な物は、休み時間に整えておきましょう。やる気があっても道具がなければ満足な学習成果は得られません。また、宿題等の提出物に地道に取り組むことで、反復学習ができ、粘り強く学習する姿勢が育ちます。

③ 授業に集中する。

気を緩めると何を勉強しているのか聞き漏らしてしまいがちです。漏らしてしまった学習内容の上に学習を積み重ねようとしても、理解することは難しいですね。ひと言も聞き漏らすまいという気持ちで取り組みましょう。

④ ノートを工夫する。

わかったつもりでいても時間が経つと忘れてしまうことがあります。あとで復習するときの参考にするためにも、授業内容をノートに記しておきましょう。また、板書にない事柄でも、先生のひと言には大事な内容が含まれています。聞き逃さず書き留めておきましょう。

⑤ 発表・活動に積極的に参加する。

意見を交わしたり自分からすすんで取り組むことで、新たな気づきがあったり、より深く学習することができたりします。また、集中力を切らさないことにもつながります。

(2) テストの受け方

学習した内容の定着度や、自分の今後の課題をはっきり知る機会の1つに、テストがあります。三加茂中学校で行っているテストは大きく分けて、定期テスト・校内テストの2種類です。

定期テストとは、各学期ごとにあるテストです。1・2学期にはそれぞれ中間テストと期末テストの計4回、3学期には学年末テストが1回実施されます。それぞれの期間内に学習した内容がテスト範囲となって、授業内容を振りかえることができます。

校内テストには、夏休みなどの長期休暇明けに行われる課題テストや、中学校に入学してから現在までの全範囲から出題される実力テストがあります。継続した学習の積み重ねが問われる内容となっています。

そこで、悔いなく自分の実力を100%発揮するためには、まずテストを受けること自体に不安を感じないようにすることが必要です。テストの受け方を知らなければ、テスト中におろおろするかもしれませんし、逆に受け方を心得ていれば、落ち着いて内容に集中できることでしょう。小学校時代とは少し違うこともあります。留意点を確認し、心も頭も準備万端の状態で臨みましょう。

《テストを受けるときの留意点》… 受験(受検)と同じ

- ① 机の中はからっぽにし、机の横に何も吊らない。
- ② 机の上には、必要な物だけ置く。… 鉛筆(シャーペン) 2～3本・消しゴム・定規・コンパス
※ ころころ転がしたり、落としたりしないこと。
- ③ 開始時間より少し前には、きちんと着席しておく。
- ④ 問題と解答用紙がそろっているか、確認する。… 小学校と違い、中学校のテストでは、問題用紙と解答用紙が別々になっていることが多い。
- ⑤ 解答用紙には、まず最初に「組・番・氏名」を必ず書き、落書きはしない。
- ⑥ 先に問題全体を見渡し、取り組みやすい問題から解く。… 1つの問題で悩みすぎないこと。
- ⑦ 時間の配分を考えながら、解く。
- ⑧ 目線は、自分の机の上のテストか、前方にある時計だけに向ける。
… 人のテストを見ない。きょろきょろしたり不正行為と疑われるようなことはしない。
- ⑨ 時間いっぱい、取り組む。… 時間が余ったら、繰り返し見直す。粘り強く最後まで解き、答えを絞り出す。
- ⑩ 正しい姿勢を保つ。… 机に突っ伏したりもたれたりしていると、眠くなる。また、真剣にしていないのではと勘違いされやすい。
- ⑪ 終了のチャイムと同時に、速やかに鉛筆(シャーペン)を置く。

さあ、これでテストに臨む心づもりはばっちりです。あとは自分の持てる力を存分に出すだけ。ただし、テストを受けたらそれでよし、ではありません。大事なことは、テストとは自分の実力を知ることはもちろん、さらにその実力を高めるためにあるものだというところを、しっかり心に刻んでおくことなのです。受けたテストは、必ず自分の手元に返ります。そのとき、きみはどうするか…！もちろん、間違えた問題やあやふやだった問題を、納得するまで繰り返し繰り返し、し直しますよね。ここでうまれる、しぶとくがんばり抜く根性は、将来仕事をする際にも、生活のどんな場面にも、絶対不可欠なのです。どうか、自分を高める努力を怠らない誠実さを、テストを含めたあらゆる学校生活から学び取ってほしいと願っています。

3. 家庭学習について

人は忘却する生き物であり、繰り返し学習することで記憶します。授業内容を深く理解し定着させるために、家庭学習が大きな役割を果たします。

本校では、家庭で毎日学習する習慣を身につけ学習成果を上げるため、全学年共通の家庭学習課題として、「自主勉強ノート」と「あゆみ」に取り組んでいます。「自主勉強ノート」では国・数・社・理・英の教科学習力を高め、「あゆみ」では1日を内省し文章化しています。

次に挙げる(1)「家庭学習のポイント」や(2)「自主勉強ノートの活用の仕方」、(3)「教科別学習のポイント」を参考にして、自分にあった学習方法を見つけ、工夫しながら取り組みましょう。また、

家庭でも相談して学習に適した環境作りに協力してもらいましょう。

(1)家庭学習のポイント

① 1週間の生活リズムをつかもう。

中学生になると、部活動や各種塾等で、毎日忙しい生活を送る人も多いはず。1週間の生活の流れを確認して、家庭学習に費やせる時間の見通しを立てましょう。

② 学習計画を立てよう。

地道に毎日取り組める、着実な計画にしましょう。また、各教科のバランスや自分の得意不得意科目も考慮した計画にしましょう。

③ 学習方法を工夫しよう。

本をただ見るだけ、読むだけ、写すだけでは学習力は高まりません。「見ながら声に出して言う」とか「声に出して言いながら書く」等、五感をしっかり働かせましょう。

④ 自分で調べよう。

わからない箇所は、すぐ答えを見たり誰かに聞きたくなるものです。しかし、楽をして得た知識は、忘れるのも早い。辞書や資料集を使って、可能な限り自分で調べてみましょう。

⑤ 宿題・ワークはその日のうちに取り組もう。

宿題やワークは、学習内容の再確認ができると同時に、自分の理解度を知る手段の1つです。しかも反復学習することによって基礎・基本が定着し、応用力をつける原動力にもなります。後回しにせず、必ず済ませましょう。

⑥ 「～しながら」学習はやめましょう。

テレビを見ながら、とか、メールしながら、ゲームをしながら片手間に、といった勉強では集中力が散漫になるため、効果は上がりません。静かに勉強に集中できる環境を整えましょう。

(2)自主勉強ノートの活用の仕方

① 日付・学習時間を記入しよう。

記入することで、家庭学習時間の意識付けができます。どれくらいの時間をかけたらどれくらいの学習ができるのか、自分を知りましょう。習慣化されれば、上手な時間の使い方ができるようになります。

② 1週間単位で5教科全てに取り組もう。

時間のかからない、楽な勉強に逃げたくなるときもあります。ここが辛抱のしどころです。自分の苦手な教科も必ず取り入れてこそその家庭学習、例えば曜日によって教科を変えるのも一つの手ですね。(例：1週間の曜日順に、国・数・社・理・英・数・英)

③ 1日1ページ以上毎日取り組もう。

家庭学習時間の目安は、中学1年1～2時間、2年1.5～2.5時間、3年2～3時間です。本校の皆さんは1ページの学習に、およそ30～50分費やすようです。自主勉強ノートで、最低学習時間は確保できます。

④ 力のつく勉強をしよう。

ただ書き写すだけの勉強では、学習成果に進展は見られません。授業で解いた問題を再確認したり、授業内容をまとめ直したり、また問題集をどんどん解いていくノートにしましょう。黙々と取り組むよりも時には声を出しながら、目・耳・口・手を同時に働かせる学習は、効果大です。

⑤ 内容を進化・深化させよう。

毎回同じ事の繰り返し学習では、定着はしてもそれ以上の成果は得られません。少しずつ、内容を変えたり、増やしたりして、着実に進歩していく学習を心がけましょう。

(3)教科別学習のポイント … 次ページ以降に、まとめています。

国語科の学習方法

1 授業について

- ・忘れ物は絶対にしない。
- ・ノートを丁寧に正確にまとめる。
- ・先生の説明や友達の意見をしっかり集中して聞く。聞いたらそれに対しての自分の考えを持つようにする。
- ・すぐ「わかりません。」と言わず、まず自分の頭で考えること。(国語は知識を暗記する教科ではないので、心で感じ頭で考えることが大事)
- ・自分の考えを自分なりにまとめ、文章に書いたり発表したりする習慣をつける。

2 家庭学習について

(1) 予習の仕方

- ・声を出して教科書を読む。(読めない漢字や意味のわからない語句にチェックを)
- ・わからない言葉は辞書を使って意味を調べる。

(2) 復習の仕方

- ・学習した漢字を繰り返し書いて覚える。
- ・授業のノートやワークシートを見て、もう一度自分なりに重要項目をまとめてみる。
- ・ワークやプリントの問題をもう一度やってみる。(とくに間違った問題を中心にわかるまで復習を)

(3) 言語能力を高める生活

- ・国語科の「読む・書く・話す・聞く」の力が、すべての教科に必要な力であることは言うまでもない。その力を使って自分の思いや考えを「伝える」ことがこれからの生活には大切であり、自分の生き方を豊かにしてくれる。
- ・国語の学習は机に向かってだけするものではなく、日常会話や読書、一人でじっくり考える時など、日々の生活のさまざまな場面で国語力を高めることができる。相手にわかりやすく伝えることを意識したり、相手の話をよく聞いて言いたいことが何かを考えたり、文学作品を読んで想像をふくらませたりすることで、読解力や表現力・聞く力や話す力・考える力につなげていこう。

3 テスト対策について

(1) 漢字・語句

- ・漢字は一点一画を正確に書く習慣をつけ、繰り返し書いて覚える。
- ・四字熟語・対義語・類義語・同音異義語・同訓異字・慣用句・ことわざは意味を理解し、毎日少しずつこつこつ覚えていく。

(2) 文章問題

- ・文学的文章は登場人物の心情を問う問題が主になってくるので、情景描写・場面の变化・会話などから登場人物の心の動きを読み取っていくようにする。
- ・説明的文章は段落ごとの要点を的確にまとめる読み方が必要。段落から全体に読み進め、主題を見つける。キーワード(繰り返し出てくる言葉)や接続語、指示語に注目するとよい。説明文の問題の答えは必ず文章の中にあることを忘れない。

(3) 古典

- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せるようにする。
- ・声に出して、繰り返し読むようにする。
- ・表現技法を必ずチェックする。(係り結び・対句表現などを特に覚える)
- ・作品名・時代・作者名は整理して漢字で覚えること。

(4) 課題作文

- ・原稿用紙の使い方を正しく理解し、それに従って書けるようにする。
- ・文体(敬体・常体)の統一を理解して書き進め、話し言葉にならないこと。
- ・段落内容(前段・後段の条件)を考え、問われていることに忠実に書いていく。
- ・常に時間を計り、時間内に条件の行数まで書ききれるように練習を重ねること。

社会科の学習方法

1. 授業について

教科書の本文を見て、次の学習内容にあたる部分を2回程度音読しておく。

- (1) 黒板に書かれたことを丁寧にノートに写す。
 - ・重要部分を色分けする。
 - ・誤字、脱字に注意する。
 - ・教師の口頭で説明したこともメモしておく。
- (2) 教師の説明に集中して耳を傾ける。
- (3) 積極的に挙手して発表する。
- (4) 班活動では活発な意見交換をする。
- (5) 資料の読み取りなどでは、自分なりの答えを書く習慣をつける。(自分の考えをもつ)

2. 家庭学習について

- (1) 教科書やノートを見て、習った重要語句を自主学習ノートに整理をする。
基本用語をしっかりと覚えるように反復学習をすること。
- (2) 教科書の本文を読み、重要な部分に線を引いておく。
- (3) 教科書にある資料に目を通す。資料の読み取りができるようにする。
- (4) 宿題を確実に仕上げる。

(5) 各分野の勉強法

【地理的分野】

- ① 用語を覚えられるように、一問一答形式の問題を反復することや、暗記カード等を作成する。
(例) 経度0度の経線を何というか。 → 本初子午線
- ② 地理的事象の因果関係をとらえる。
(例) 熱帯地域には高床の住居がみられる。 → 熱帯は年間を通して雨が多く、気温が高いため。
- ③ グラフや地形図の読み取り、時差の求め方などの技能を高める。

【歴史的分野】

- ① 用語を覚えられるように、一問一答形式の問題を反復することや、暗記カード等を作成する。
- ② 歴史的事象の因果関係をとらえる。
(例) 日本列島に人類が移住 → 氷河時代、大陸と陸続きであったため。
- ③ 各時代の文化の特色をとらえる。(例) 国風文化→かな文字の発達→源氏物語の完成
- ④ 時代の流れを理解できるように、日本や世界の歴史年表を作成する。

【公民的分野】

- ① 用語を覚えられるように、一問一答形式の問題を反復することや、暗記カード等を作成する。
- ② 新聞やニュースを見る。**※入試問題には、時事問題が出題されることもあります。**

3. テスト対策について

- (1) 教科書を読み直す。
 - ・本文の太字部分だけではなく、資料や写真にも注目する。
- (2) ノートを読み直す。
 - ・ノートを見ながら、さらに要点の整理をする。ノートには、基本的な内容が記入されている。
- (3) ワークブックなどで、問題を繰り返し解く。
 - ・自主学習ノートなどに、ワークの問題の答えのみを記入し、くり返し解答する。
 - ※1回だけでは力が定着しない。力がつくのは「くり返し」。

数学科の学習方法

1. 授業について

- (1) 準備物を忘れない。
当然のことです。仕事に必要な物を持たずして仕事はかどる、なんてことはありません。教科書・ノート・筆記用具・数学演習・道具等、学習前の準備を整えておきましょう。
- (2) ノートを工夫する。
当然のこと²です。50分の授業で、何につまずいて何をつかんだか、学習の跡を残しましょう。手と目と耳を同時に使う“書く作業”は、脳を刺激します。分かったつもりになってぼ〜っと授業を受けるだけでは脳は休憩してしまい、絶対向上なんかしない。それに、黒板に書いてあることはもちろん、書いてなくても先生が発する言葉の中にこそ“数学のつぼ”があるのでは？それも瞬時にメモしておく、ポイントがはっきりしますよ。
- (3) 提出物・宿題の期限を守る。
君が日本語をしゃべれるのは、小さいときから繰り返し繰り返し何度も日本語を聞き、使い続けているからです。同じように、数学のコツをつかむためには、繰り返し学習が大事です。そう！提出物・宿題は、繰り返し学習なのです。そして提出期限を守ることは、自分が意識して繰り返し学習をすることになるのです。

2. 家庭学習について

- (1) 習ったことは、その日のうちに再確認する。
人は、忘却する生き物です。忘れないようにするには、繰り返したとき込んでおくしかないのです。今日の授業の習いたてほやほや問題を、その日のうちに自主勉強でやりなおしてみよう。一度解き終わった問題です。授業では50分かかった問題でも、家でなら15分もあれば十分できます。時間をうまく作って、“今日の授業の復習タイム”を習慣化しましょう。
- (2) 毎日欠かさず解き続ける。
〈授業がなかったから復習しない〉ではなく、毎日数問は必ず解きましょう。解く問題数が多ければ多いほど良いのはもちろんですが、最低でも5問とか10問とか自分で決めて、絶対に毎日続けるのです。教科書の問題でも、数学演習の問題でも、自分が持っている問題集でもいいのです。(ただし、完全にマスターした解きやすい問題ばかり形式的に解いても、ほとんど今以上の効果が得られないことは、君自身が一番分かるよね。)
- (3) 手と目と口と耳を使う。
授業中には、ぶつぶつ声を出して解くわけにはいきません。でも、家なら遠慮はいらない。同じ書く作業でも、目で見て手で書いて口に出して耳で聞きながら、しっかり書きまくりましょう。短時間で集中して効率的に自分の力にするためには、これらの機能の同時進行が重要です。

3. テスト対策について

- (1) ノートと教科書をチェックし直す。
自分がどこでつまづいたかは、授業ノートに残した間違い直しやチェックの跡を見て、そこを重点的に取り組めば弱点克服できます。また、あのときの先生のつぶやきやそのときの授業の記憶を呼び覚ますこともできます。最低でもひと通りは解き直しましょう。
- (2) 数学演習や提出課題をやり直す。
難があまりない問題ならひと通りこなしましょう。以前間違えていた問題は、覚え込むまで見て書いて声に出しながらその声を自分で聞きながら、が〜っとたたき込むのです。
- (3) 自分で予想問題を作成してみる。
先生になったつもりでテストを作ってみよう。教科書や数学演習、プリント等の中の問題から選んで、1枚のテストを作り、解いてみましょう。いつもは狭い内容の中で取り組んでいたものが、ある程度の範囲全体を見渡すことで、学習内容のつながりや関連のさせ方がつかめるよ。ある部分の学習がどの領域の中のどの部分に位置づけられるかが分かると、これまで悩んだりぼんやりしか理解できなかったりしたことでも、すっきり納得できたりするものです。

理科の学習方法

1. 授業について

(1) 実験観察に積極的に取り組もう

理科の学習の楽しみといえは何ととっても実験・観察です。授業中にやっている実験観察を協力して一生懸命にやろう。実験観察については次のことをきちんと押さえよう。

- ・目的→何のためにやるのか，何を調べるのか。
- ・方法→使う道具・薬品の名前や使い方，その手順。
- ・注意点→安全に行うために気をつけることはテストによく出る。
- ・結果→期待通にならないこともあるけれど，きちんと記録する。
- ・考察→どうして結果がそうなったのか，説明ができるようにする。

実験・観察について自分で予想し，調べ，そして考えることが大切です。

(2) 先生の話をよく聞きましょう。

実験観察の説明や考察，いろいろな自然現象など，先生の話の中には大切なことがいっぱい。授業中に先生が言ったことで大切なこと，興味を持ったことをちょっとメモしておく役に立ちます。

(3) 板書や大切なことを，色分けも使いノートにまとめましょう。

ノートは後で見てわかることが大切です。重要なところに線を引いたり，色を変えたりして，効率よく復習ができるようなまとめ方をしましょう。

(4) 提出物は必ず出しましょう。

提出期限を守り，課題・宿題は必ず提出しましょう。

2. 家庭学習について

(1) しっかり復習しよう

分からないことを残さないように，忘れていないその日のうちに復習しよう。しかし，しばらくすると忘れます。できれば数日後にノートや探究の理科などの問題を解いてみて間違えたところを見直しましょう。何度も忘れて覚え直そうという気持ちが必要です。

(2) 教科書の用語を覚えよう (特に太字のもの)

さまざまな用語の定義を理解することが大切です。言葉の意味を的確に覚えよう。
また、覚え方を工夫しよう。

・漢字の意味で覚える

例 被子植物…胚珠が子房に包まれている植物

胚珠(子)が包まれている(被っている)植物

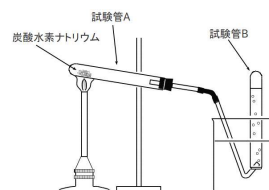
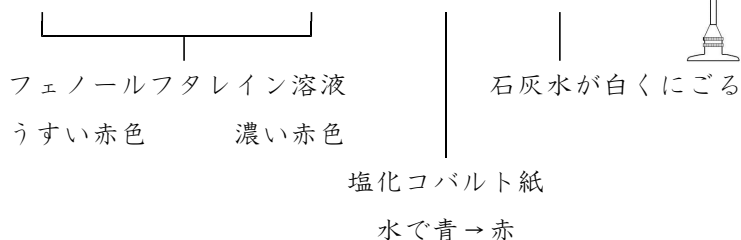
裸子植物…胚珠がむき出しの植物

胚珠(子)がはだか(裸)の植物

・実験観察と関連づけて覚える(テストに出るパターン)

例 炭酸水素ナトリウムの分解の実験がテストに出ると

炭酸水素ナトリウム → 炭酸ナトリウム + 水 + 二酸化炭素



試験管の口を下げておく → 加熱部分に液体が流れて試験管が割れるのを防ぐ
火を消す前にしておくこと → ガラス管の先を水槽の水から出しておく

(3) 計算問題は繰り返し解こう。

計算問題は、よく理解し、慣れることが大切です。繰り返し何度も解きましょう。

3. テスト対策について

(1) テストの前には

テスト範囲のプリント、ノート、探究の理科の問題を解き、間違えたところは、間違えなくなるまで繰り返し解いてみる。分からないところは先生に質問しましょう。実験観察については、目的・方法・注意点・結果・考察について確認しておきましょう。教科書の単元のまとめなどを利用し、大切な用語やポイントを押さえておきましょう。

(2) テストの後には

間違えたところは、答えを確認し、次のテストで同じミスをしないようにしておきましょう。計算やグラフの問題など、複雑な問題は必ずやり方を理解し、分からないままにしておかないこと。

英語科の学習方法

1. 授業について

- (1) 準備物を忘れない。
- (2) 板書を丁寧に素速くノートに写す。
- (3) 先生の説明を集中して聴く。(書きながらでは集中できない)
- (4) 発音は大事である。大きな声で練習する。
- (5) ALTとの授業には特に積極的に参加する。
- (6) 長文和訳はその場面を想像し、ある程度予想して訳してみよう。
登場人物や数字、場所などを的確につかめれば一語一句完璧に訳せなくてもよい。
- (7) 提出物・宿題の期限を守る。

2. 家庭学習について

- (1) 予習の仕方
 - ① 次のパートの単語の意味調べと本文の和訳をする。
 - ② 毎時間の単語テストの単語練習をする。
- (2) 復習の仕方
 - ① 板書を写したノートをもう一度授業を思い出しながら書く。
そして、自分なりのまとめノートを作成することも一つの方法。
(後で参考書にもなる)。
 - ② 英文・英単語を声を出して読む。そして覚えるまで何度も書く。
 - ③ ワークでまとめる。
 - ④ 単語カードを作成し定期的に自分で単語テストをする。
英文(基本文)カードも作成しチェックするのもよい。
 - ⑤ 宿題は自分の力で仕上げる。

3. テスト対策について

- (1) 単語・連語・基本文
 - ① 理屈抜きで覚えるものと系統立てて整理して覚えるものの仕分けをする。
りんごは「apple」、これは理屈抜き。しかし「student」「study」はどちらも勉強に関係するし、最初の「stud」までは一致しているところに気付こう。
また、「different」「difficult」はよくにているけど確実に違いを区別して覚えることが難しい。そして月名の9月からはすべてが「ber」で終わっていることにも気付こう。そして、自分なりの単語ノートを作るのもよい。
そして、単語カードや英文カードを使うことも効率的。
 - ② ただ眺めるだけでは覚えることはできない。ひたすら書いて覚える。
声を出しながら勉強する。音読できない単語は書けない。
- (2) 長文読解
 - ① 基本は教科書である。授業中、先生がどのように訳しているかを家でもう一度復習しよう。
 - ② 常に「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」かをおさえながら訳していこう。聞き取りに関してもそれをメモすることが大事。
- (3) 総合問題
 - ① 問題集を活用する。
最近は何の問題集もすばらしいものばかりである。これなら自分にもできるという内容のものを選んでやろう。解説が詳しいものがよい。
 - ② 一度だけでなく、もう一度やり返すことは学習の定着になる。
- (4) 聞き取り
DVDで外国映画を見るとき、日本語吹き替えではなく極力字幕スーパーで観たり、英語のテレビ(ラジオ)番組を積極的に観る(聞く)のも聞く力をつける方法である。

グローバル化が進み、英語の必要性はますます高まっている。また、今日の日本の生活の中には外国語があふれ、特にコンピュータやスポーツ用語を中心として、日常的に英語が使われている。

しかし、英語が苦手な生徒も少なくなく、読む・書く・聞く・話すの4技能がバランスよく身につけていない場合もある。課題の中の一つとしてスピーキング力低下がある。ALTとの会話やCDを使っただけでなく、教科書を使った音読練習をしてほしい。また、入試対策として長文読解にも挑戦してほしい。

音楽科の学習方法

1. 授業について

- (1) 準備物を忘れない。

教科書・中学器楽・ワークシート・ミュージックランド・アルトリコーダーは毎時間必要です。特にアルトリコーダーを忘れると1時間無駄な時間を過ごすことになります。

- (2) 先生の説明を集中して聴く。

学習のポイントを聞きもらさない。「覚えておきなさい」「大事なところですよ」や何度も繰り返し説明していることはワークや教科書にライン引き、メモなどで印をしましょう。

- (3) 板書したことはワークに書き写す。

- (4) アルトリコーダーは繰り返し練習をする。

アルトリコーダーの奏法は呼吸のコントロールと運指、そして舌の操作が互いに関連しあい演奏と表現上の基本となります。

- (5) 恥ずかしがらずに歌を歌う。

斉唱・混声合唱で歌う練習します。合唱コンクールではたくさんの人前で歌います。自分の思いを歌にのせて表現します。心のない歌は感動を呼びません。

2. テスト対策について

- (1) 教科書を見直す

本文の太字や赤ペンでの書き込み、マーカーでアンダーラインを引いたところは特に大事なところなのでしっかり覚えましょう。

- (2) 教科書 P84 の基礎知識をつける。

P84 は1年生から3年生まで必ず出題されます。各学年に応じた問題が出題されます。

- (3) 評価について

評価は授業態度・提出物・テストと実技を総合して評価します。

美術科の学習方法

1 授業について

(1) 忘れ物をしない

筆記用具（鉛筆）・教科書・標準美術・創（ワークシート集）は毎時間必要です。それに加えてデザインセットや色鉛筆、はさみ、のり、資料などの準備物が必要になることがあります。最初の美術の授業で説明しますが、絵の具を使うときにはポケットティッシュや古タオルなどの筆の水分を調節できる物が必要です。また、デザインセットのアクリル絵の具がなくなった時は各自で買って補充してください。道具がそろわなければ良い作品はつくれません。

(2) 安全に気をつける

美術ではカッターや彫刻刀、今まで使ったことのない道具を使うことがあります。授業中の説明を良く聞いて、自分も友達もけがの無いように注意しましょう。また、学校の備品をいつまでも大切に使い後輩へと受け継げるように心がけましょう。

(3) 面倒がらない

作品に上手下手はありません。ていねいにこつこつと気持ちを込めて制作してください。苦手だと思っている人も試行錯誤して仕上げた作品は必ず人を感動させます。

(4) 人のまねをしない

作品に有名なキャラクターを使用したり友達の作品をそのまま写すことは著作権法違反になります。自由に思いのまま創作することに美術に楽しさがあります。人とは違うことで「すごい!」「おもしろい!」と感動させることのできる作品を目指してください。

(5) 作品を大切に作る

制作途中の作品や廊下に掲示している作品、返却された作品は、制作時の思いがつまっています。痛めたり汚したりはしないでください。

(6) じっくり見る

授業で有名な作品について学習することはもちろん、友達の作品を鑑賞したり、自分の作品について説明することは美術としての「鑑賞の力」をつけるためです。日頃からいろいろな美しいと思う物をじっくり見て、その良さや美しさを感じてほしいです。その感動を自分の言葉で表現し、いろいろな見方ができることが「鑑賞の力」です。それが友達の良いところに気づける力になり、自分の良さ気づいて自信につながります。そして作品をつくる力の基礎になるはずです。

(7) 気軽に描こう

絵がうまくなるためにはとにかく描いてみましょう。漫画やイラスト的な絵から描いてみても良いと思います。最初から満足な作品が描ける人はいません。何事も練習あるのみです。

2 テストについて

美術のテストは基本、標準美術から出題されますが、それ以外に授業の内容から出題されるもの、絵を描く実技問題があります。テスト前の授業で学習のポイントを説明するので、アンダーラインを引いたりメモを取っておきましょう。また、実技問題には準備物として鉛筆やものさしが必要になることがあります。評定は授業態度と作品とテストを総合して評価します。

保健体育科の学習方法

保健体育科では、心と体を一体としてとらえ、健康で、安全な生活を送るために運動に親しむ力や健康の保持増進のための実践力が育つように学習していきます。そして、中学生に見合った体力の向上を図り、健康的で明るく生活を送れることを目指します。

1. 授業について

(1) 準備物を忘れない。

体育分野・・・季節・気候に応じて体操服を着ます。

- ①半袖・ハーフパンツ ②長袖・ハーフパンツ ③長袖・長ズボン
場所によって・・・体育館シューズ, ランニングシューズ(必要な人は)
内容によって・・・実技の教科書, 水泳の用意

保健分野・・・保健体育教科書, 保健体育の学習(学習ノート)

(2) 先生の説明を集中して聞く。

学習のポイントは聞き逃さないように！先生が繰り返し言うことや強調して説明していることは大事なことです。教科書や学習ノートにラインを引きましょう。

(3) 板書したことはノートにきちんと書く。

保健の授業をしているときに大事なポイントは色をかえて書くことがあります。赤色・青色のペンも準備しておいてください。

(4) 学習を楽しく安全に進めよう。

【体育分野】

- ① 運動する環境を整え、準備し、道具など安全に正しく使用する。
- ② 危険な行動をしない。
- ③ 爪を切り、肩より長い髪は結ぶようにする。

【保健分野】

- ① 学習中はふざけたり、よそ見をしたりしない。
- ② 話し合い活動では、友達と協力し合い、積極的に取り組む。

2. テストについて

(1) ノートにまとめたことをしっかり覚えよう。

もう一度、教科書や学習ノートを見直し、大事なところを別のノートや紙に書いてみましょう。また、配布されたプリント類も見直しましょう。

(2) 評価はテストだけではありません。

体育分野を実技の結果や保健分野をテストの点数だけで評価しません。授業中の態度、提出物、そして保健体育では「思考」も大切です。自分の体について向き合い、課題を見つけて、解決するために何をしなければならないかと考える活動も取り入れていきます。毎時間、一生懸命に取り組んでください。

技術・家庭科の学習方法

技術・家庭科では、よりよい生活をするために、生活に必要な知識や技術を習得し、これからの生活を展望して課題を解決する方法を学びます。生活に生かすためには、知ることだけでなく、実際に手や体を動かして体験することも必要です。これらの学習を通して、生活を工夫し、創造できるようになることが技術・家庭科の目標です。

1. 授業について

- (1) 準備物を忘れない。

教科書・技家ノート・ファイルをいつも準備しておきましょう。

作業をするときは、体操服やエプロン等、決められた服装を準備しましょう。

- (2) 先生の説明を集中して聴く。

学習のポイントは聞き逃さないように！先生が繰り返し言うことや強調して説明していることは大事なことです。教科書やノートにラインを引きましょう。

- (3) 板書したことはノートにきちんと書く。

大事なポイントは色をかえて書くことがあります。赤色・青色のペンも準備しておいてください。

- (4) 実習を楽しく安全に進めよう。

【技術分野】

- ① 作業する環境を整え、準備する。
- ② 危険な行動をしない。
- ③ 工具や機器などを安全に正しく使用する。

【家庭分野】

- ① 実習の内容に応じた動きやすい服装をする。また、爪は短く切っておく。
- ② 機械や用具は先生の指導の下に使用する。
- ③ 実習中はふざけたり、よそ見をしたりしない。

2. テストについて

- (1) ノートにまとめたことをしっかり覚えよう。

もう一度、教科書やノートを見直し、大事なところを別のノートや紙に書いてみましょう。また、配布されたプリント類も見直しましょう。

- (2) 評価はテストだけではありません。

授業中の態度、提出物、そして作品等で評価をします。毎時間、一生懸命に取り組んでください。